

日 時：平成 27 年 5 月 19 日（火）18 時 30 分 ～20 時

場 所：久吉地区公民館

対象地区：久吉・湯ノ沢

参加人数：16 名

■意見交換（まち・ひと・しごと創生への取り組みについて）

内 容
<p>○地方人口ビジョンの策定について （市民からの要望・質問）</p> <p>昨年、市でも同様の計画（長期総合プラン）を策定していたが、どう方向性が違うのか。平川市自体が目指すものに沿って作るのか、あるいは業者に依頼するのか、市民ぐるみで作るのかを聞きたい。</p> <p>市の各産業の要望に沿った資料、ビジョンを作ってもらわなければ消火的なビジョンになってしまう恐れがある。市として骨組みや方向性を示し、その上で依頼した方がいいのではないか。</p> <p>久吉地区は町会の会員数が減少しており、最悪の場合、20 年後には今の半分になってしまうのではないかと考えている。それを考えた上でのビジョンを作ってもらいたい。</p> <p>業者に依頼するのは、将来を見据えたビジョンを骨格として作るために依頼し、それに沿って住民ごとの策定を市が行っていくという捉え方でいいのか。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・人口ビジョンというのは、地方が 5 年後、10 年後に人口がどう推移していくのかを把握する目的がある。そのために、業者に統計資料の作成を依頼した。・長期総合プランとの違いであるが、長期総合プランは市民生活の基礎的な部分のみ 10 年ごとに計画を作っていくのに対し、今回の総合戦略は全く違う計画であり、長い将来を見据えた計画であるという点で異なる。・統計資料の作成は業者が行うが、総合戦略は市の職員が人口ビジョンのデータを参考にしながら、手作りで作っていく。従って、平川市独自のものが出来上がると思う。・平川市は市全体で年間約 300 人ずつ減少している。しかし、地域差があるため、地域の状況に合わせた政策を行っていく必要があると感じている。今回の人口ビジョンは総合戦略の基礎となるものを調査会社に委託して行うというものである。人口問題研究所が出しているデータもあるが、それだけで総合戦略に反映することは難しい。職業など細かなものを利用しながら総合戦略を策定していくことになると思う。・人口減少には自然減と社会減がある。市としては産業・雇用の振興を図りながらやっていきたいが、大きな企業などの雇用の場がないというネックになる部分がある。できるだけ雇用の場を確保するようなことを考えているが、企業誘致は大変な状況である。地域の皆さんと一緒に考え、需要に応じて行っていきたい。
<p>○観光施設もてなし環境整備事業補助金について</p>

(市民からの要望・質問)

一般家庭のバリアフリー化のために使うことができるのか。わからない人も多いと思うので、市でもっと宣伝して一般の人に広めてもらいたい。

(市の回答)

- ・これは観光施設だけに用いることができる。一般家庭の階段に手すりを付けるなどの助成は、介護のための改造のリフォーム事業がある。
- ・介護認定をされている方の自宅の場合のバリアフリーについては、介護サービスの中で提供されており、福祉の面から対応できる。
- ・広報では掲載していると思うが、皆さんの目に届くというところまでいかないこともあるかもしれない。どうすれば市民の皆さんによく知ってもらえるかを考えていきたい。

○プレミアム付き商品券発行事業について

(市民からの要望・質問)

1軒当たり何万円まで購入することができるのか。プレミアム付き商品券の使用期限はいつまでなのか。

(市の回答)

- ・1世帯あたり10万円、最大12万円分の買い物が可能で、商工会で販売する。
- ・使用期間は7月から12月31日までである。商工会のチラシ等でお知らせがあるかと思うので確認してもらい、購入してほしい。

■意見交換

内 容

○私道の整備について

(市民からの要望・質問)

高齢者の独り暮らしが多く、除雪した雪が片付けられない。また、除雪の際に泥を端に寄せてしまうので、側溝に土が溜まってしまい、雪解けの時には道路が水浸しとなっている。住んでいる所だけでも雪かきと側溝の泥上げをお願いしたい。

道が暗く、夜に帰ってくる人や高齢者が大変なので、防犯のためにも街灯を点けたいが、賛同する人が少ない。地域で集めているお金だけでは難しい。

(市の回答)

- ・住民がいるということで除雪を行っているが、基本的には私道なので市で整備するわけにはいかない。雪の問題は、どの地区でも高齢化が進んでおり、自分で除雪できなくなったという声は多く聞こえている。
- ・行政としては私道に公費を使うことができず、大変申し訳なく思う。
- ・市や町会が管理する街灯は今年LED化を行っており、電気料が安くなるはずである。
- ・湯ノ沢には町会がない。昔からの別荘地なのでコミュニティがなく、久吉の町会にも入

らない。

(市民からの要望・質問)

住んでいる人もいるので、実際に見てもらい、生活に困らない程度の支援ができるかどうか検討してほしい。

(市の回答)

・実際に見てどういう手だてがあるか検討し、返事したい。

○消防の屯所について

(市民からの要望・質問)

久吉の消防の屯所が激しく壊れており、消防団が活躍できない。

(市の回答)

・消防団の屯所については、平成 28 年度に計画があり、近くなれば町会と話ができるかと思う。古い順番で計画を作っているので、予算の確保ができれば計画通りに進められると思う。

○久吉の公民館について

(市民からの要望・質問)

久吉の公民館がだめになってきている。船岡のものもあるが、一緒にして規模を小さくしてもいいので、何とかしてほしい。

(市の回答)

- ・久吉地区公民館は単なる社会教育の中の公民館としてだけではなく、住民の皆さんが集まる場所として大切だと聞いている。市では多目的集会所のような建物として位置づけられるかを検討し、協議を継続していくことになったと聞いている。
- ・市としては平成 27 年度から集会施設の修繕・管理について新しい基準となり、修繕・管理がしやすくなってきている。
- ・公民館については今年から基準が変わり、新築の場合は町会負担が 3~6 割あったものが、1 戸当たり 15,000 円の負担で建てられることになり、残りの部分は市で持つ。ただし、広さは町会によって違うが 300 平米以内である。
- ・久吉は 200 平米までなので、現在の半分以下になってしまう。超えると町会負担になってしまう。

(市民からの要望・質問)

船岡はなくても、ここだけやってもらえればいい。

(市の回答)

・船岡の集会所はなくなると思う。久吉の公民館をここに建てるのか、場所を移すのかを

早く決めて話し合いの中で了解を得られれば、古懸と久吉の公民館は耐震基準を満たしていないので、早くに着工できるのではないかと。

- ・集会施設の基準等について、昭和 57 年以前の集会施設は市内で 19 カ所あり、古い順番に耐震改修や建て直しを行っていく。久吉地区公民館については昭和 57 年、船岡については昭和 53 年の建物となっている。船岡と久吉の建物を一つにし、古い船岡を解体する場合に久吉はどうなるかということになるが、計画では、19 ある施設の中で最後になっている。その計画でいくと建設は平成 36、7 年頃になるかと思うが、できるだけ計画を前倒しにできるようにしたい。

(市民からの要望・質問)

早くしなければつぶれてしまうと思うので、早目になるように指導してもらいたい。

(市の回答)

- ・集会所を新しくするのに市としては毎年 1 億円、大体年 2 カ所ずつとみている。また、すべて建て替えず耐震補強で終わる町会もあり、その費用は全て市で持っている。ただ、新しく改築する場合は 1 戸当たり 15,000 円を負担してもらい、できた後の管理は町会にお願いするという形になっているので、その辺は町会によって選ぶ基準が違ってくると思う。
- ・耐震診断は昭和 57 年以前の 19 カ所の建物のうち、4 カ所で行っており、耐震基準を満たしていないことが分かっている。その他に耐震診断を行っていない所も耐震基準を満たしていない場合が出てくると思うが、耐震基準を満たしていない建物の中で古い順番に建て替えることになる。

○バイオマス発電について

(市民からの要望・質問)

バイオマス発電の能力はどの程度で、市民に還元されるということがあるのか。また、今作っているバイオマス発電よりも小規模 (2,000kW 以下) のものの電力買取価格が上がったそうだが、碓ヶ関などの山林地域では大いに活用したいので、調査をお願いしたい。

碓ヶ関、大鱈はダムが多いので、ダムの水力発電によって地元の電気の使用料を賄い、地域に還元することができないか調査を依頼したい。前もって県議会議員を通じて中南地域県民局には調査を依頼している。

(市の回答)

- ・バイオマス発電の能力だが、発電能力は 6,250kW であり、平川市全体の電力を賄うことができる程度である。市民に還元できるかどうかということだが、あくまで民間企業なので難しい。市で助成しているのは、雇用を創出するためである。
- ・国で小規模のバイオマス発電を進めているが、事業者によるとペイしにくいという話もある。今回のバイオマス発電は固定価格の買い取りで杉の間伐で 1kW あたり 32 円と高く買い取るため、ペイできる。

- ・小規模発電所の場合、多くの数が必要になる。そうなると、多くの材料も必要になり、間伐材だけでなく木をすべて切ってしまうことになりかねないので、どんどん発電所を作るわけにはいかない。
- ・現在、八戸に平川市よりも大規模なバイオマス発電所が計画されているが、材料の取り合いにならないか心配している。だが、バイオマス発電所ができると市の税収が増え、雇用が増えるというメリットがある。また、発電所から出る熱で野菜を育てるなど、関連する産業も育てることも併せて行っていきたいと考えている。
- ・水力発電はいいが、ダムの水を使うにはかなりの投資が必要になると思うので、調査をしたい。水力発電などの再生可能エネルギーの買い取り価格の負担は電気料に跳ね返ってくることに加え、工場などに安定してエネルギー供給することが難しいという課題もあるため、難しいところである。

○太陽光発電について

(市民からの要望・質問)

ソーラーパネルを設置する時には助成等あるのか。

(市の回答)

- ・住宅用太陽光発電システムの場合は、1kW あたり 25,000 円、最大 10 万円まで助成がある。市内の業者の場合、1kW あたり 3 万円、最大 12 万円まで助成ができる。もし計画があれば企画財政課に問合せをしてもらいたい。